

令和3年度えりも地域ゼニガタアザラシ保護管理協議会

議事要旨

日時：令和4年3月8日（火）15：00～16：30

会場：えりも町福祉センター 大会議室
（オンライン併用開催）

議事1：令和4年度(2022年度)事業実施計画(案)について

事務局より、資料1-2「令和3年度事業報告と令和4年度事業実施計画について(概要)」を基に、来年度事業実施計画案について説明した。

【主な質問・意見】

- ・ポケット網の使用について感想を聞きたい。（座長）
⇒来年度も使っていく予定。潮の流れを考慮して設置場所を変更したい。（漁業関係者）

本協議会を以て、令和4年度(2022年度)事業実施計画は了承された。

議事2：生態モニタリング調査報告

小林委員より、資料2の環境省委託業務について、捕獲及び混獲個体のモニタリング、行動調査解析、オルソ画像からの体長計測、漁業被害等について結果を報告した。

【主な質問・意見】

- ・亜成獣、成獣の発信機のデータをみると、沿岸に沿って行動し、行動エリアもかなり広く、胃内容物からみても水深10m～20mに生息する種が餌となっている。沿岸性の餌や底生性の餌を頼り、餌生物の分布が多い場所に移動しているという可能性はあるか。（座長）
⇒成獣は沿岸沿いの限られた場所で餌を食べているため、餌のある場所を知っており、浦幌辺りでは上陸もせずに、餌だけ食べて上陸場へ戻って休息するパターンであると思う。
- ・今後は、疫病のリスクに加え、赤潮のリスクも考慮した個体群管理を行わなければならないのか。
⇒赤潮の場合は起きる確率は非常に不確定であり、かつアザラシにどのような被害を与えるかもわからない。そのため、これからの国と道の研究に期待している。（座長）
- ・赤潮によって、アザラシも生息地を変える可能性があるが、今まで襟裳岬中心で行ってきた個体群管理の対象地域を広げていく必要はあるのか。
⇒えりもの個体群は襟裳岬にしか上陸場がない。餌場は広がる可能性はあるが、上陸場には固執するタイプであるため、襟裳岬の上陸場の個体数をきちんと把握することが重要である。
- ・サバやイワシなどは、海の中ではゼニガタアザラシが捕まえることができるスピードではないため、網の中で食べたものであると思われる。そのため、胃内容物として出てくる魚類の生態も考慮したうえで、ゼニガタアザラシの行動圏の広がり解析していただきたい。（座長）

※桜井委員講演

協議会終了後に、『昨年の海洋での出来事と冷水性赤潮』について、ご講演頂いた。

【主な質問】

- ・春の状況はすごく希望の持てる定置網漁になると思うが、これは秋まで続くと考えてもよいか。
⇒判断するのは非常に難しく、今のところはまだ分からない。

以上